

NEWS

JAAF
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会

第77号

H26.12.23発行



木村文子

Ayako Kimura

日本女子ハードラーの第一人者
広島陸上の顔

인천아시아경기대회



INCHEON 2014

陸上人

FILE0016

リオを見据え、完全復活期す

木村 文子

女子100mH

エディオン

Ayako Kimura

プロフィール | 木村 文子(きむら・あやこ)168cm / 52kg
1988年(昭和63年)6月11日生まれ / 可部中一 祇園北高一 横浜国立大エディオン

主要成績 | ●2003年 / 全国中学校選手権(札幌)走り幅跳び⑩●2004年 / 国体(青森)少年女子B走り幅跳び④5m32●2006年 / 全国高校総体(大阪)走り幅跳び①5m93、100m障害⑩14.39●2009年 / 日本インカレ(国立)②13.88、国体(新潟)⑤13.85●2010年 / 織田記念(広島)⑩13.85、日本選手権(丸亀)④13.80、日本インカレ(国立)①13.28、国体(千葉)②13.35●2011年 / 織田記念(広島)①13.28、ゴールデンランプリ(等々力)⑧13.59、日本選手権(熊谷)①13.32、アジア選手権(神戸)④13.26、全日本実業団(鳴門)①13.25、国体(山口)①13.19●2012年 / 織田記念(広島)①13.04、ゴールデンランプリ(等々力)③13.31、日本選手権(長居)①13.25、ロンドン五輪・予選⑦13.75全日本実業団②13.66●2013年 / 織田記念(広島)①13.02(追い風参考)ゴールデンランプリ(調布)④13.20、日本選手権(調布)②13.03、アジア選手権(インド)①13.25●2014年 / 織田記念(広島)①13.22ゴールデンランプリ(国立)⑥13.13、日本選手権(福島)①13.34、南部記念(札幌)①13.48、コンチネンタルカップ(モロッコ)⑥13.17、仁川アジア大会(韓国)③13.25
※2009年以降の種目はすべて100m障害



モロッコでのタイムと比較してというよりは、思うように自分のレースができなかったことが悔しかったです』

自己ベストである13秒03をマークした2013年、アジア選手権(インド・ブネー)で優勝しアジアの頂点に立った。それだけにアジア大会には期すものがあつた。アジア・チャンピオンとして金メダルへの意欲には強い思い入れがあつたのだ。

故障乗り越え、アジア大会「銅」

「陸協ひろしまニュース」の表紙を飾るのは68号(2010年)、74号(2012年)に続いて3度目。日本の女子100mハードラーの第一人者は、押しも押されぬ「広島陸上の顔」である。

2014年シーズン、陸上界のビッグイベントである仁川アジア大会(韓国)で銅メダルに輝いた。日本選手にとって、女子100m障害のメダリスト誕生は1990年北京大会(秋元千鶴子・3位)以来、24年ぶりの快挙であった。

10月1日の決勝。中国勢2人に先行を許し苦しい展開となった。韓国選手も譲らない。4番手の後半、じわじわ追い上げ、韓国選手を振り切った。3番手で飛び込んだフィニッシュは13秒25。直前のコンチネンタルカップ(モロッコ)で出した13秒17には及ばないが、日の丸を掲げて笑顔が広がった。

ところが、インタビューでは一転、悔しさがこみ上げてきた。自分の描いたレースではなかったからだ。12秒72で優勝した呉水嬌(中国)には大きく後れをとった。

『コンディションは悪くなかったのですが、前半から思うような加速ができなかったのが悔しかったのです。でも、最後の最後までしっかり走ることによって獲得できた銅メダルでもあつたので、その点は良かったと思っています。(優勝した)中国選手は2013年の世界選手権(モスクワ)や東アジア大会(中国・天津)に出ており、12秒台の記録を持っていることは知っていました。

『もちろん(金メダルへの)気持ちはありました。アジア大会は選手権と違いますので、そういう舞台での優勝はまた違った価値があると思っています。世界に出ていくためにも、アジア大会では優勝したかったので、悔しいです』

アジア大会制覇を目指したシーズンではあつたが、足取りは順調だったわけではない。前年秋、競技生活の先行きを危うくしかねないアクシデントがあつたからだ。9月の全日本実業団選手権(埼玉・熊谷)決勝で3台目のハードルにつまづき転倒、左太ももを21針縫う大けがをした。3カ月は走れない状態が続き、ピンチを迎えていた。練習を再開できたのは暮れも押し詰まった時期だった。そして迎えた14年シーズン。当然、不安の方が大きかった。



『シーズン前はもちろん不安もありましたが、広島でのリハビリを経て、周りの方々に支えられて、自分のペースでシーズンを迎えられたように思います。特に、トレーナーの皆さんにしつ

かりとサポートしていただいで少しずつではありますが、レースに出てみようという気持ちになりました』

初戦となったホームコースの織田幹雄記念陸上(広島)が希望の光を投げかけた。7カ月ぶりとなったレースを13秒22で走り抜いた。blankを感じさせない軽快なハードリング。何より地元ファンの温かい声援が、不安を和らげていた。解体前、最後の競技会となった東京・国立競技場でのゴールデンランプリ(5月11日)では、6位ながら13秒13の好タイムをマークした。故障のショックは徐々に癒えていた。

『シーズン前は、実際はこんなに走れるとは思っていませんでした。織田記念で走ったのがきっかけで、ゴールデンランプリは自信を持って走れました』



勢いに乗って6月、アジア大会代表のかかる日本選手権に臨んだ。前年は13秒03の自己ベストを記録しながら、0秒01の差で紫村仁美(佐賀陸協)に敗れた。モスクワ世界選手権への切符も奪われた。

1ヵ月後、福島で行われた2014年日本選手権では他を圧倒した。序盤からリードを広げると13秒34で逃げ切って2年ぶりの優勝を飾った。

タイムは本意ながら再び、日本の女子ハードラーのトップに立った。そして日本代表として乗り込んだ仁川アジア大会で銅メダル。シーズン前の不安はある程度解消された。ただ、内容には不完全燃焼ではあつたが。

帰国後は国内競技会への出場は見送った。全日本実業団選手権(山口)、国体(長崎)も回避した。東の間の休息の後、米国アリゾナ州でトレーニングを再開した。新たな目標は2016年リオデジャネイロ・オリンピックへの挑戦である。

初めて参加した2012年ロンドン五輪は予選7位(13秒75)と苦杯を喫した。2度目の五輪出場に静かな闘志を燃やす。

『オリンピックという舞台は特別なものです。周りの方々にもぜひ見てもらいたい舞台です。(ロンドンから)4年分の想いを持って、しっかり戦えるように、一日一日を大事にして、自分のやるべきことに取り組んでいきたいです』

大けがという心身の痛手から再起し、アジア大会3位で終えた2014年シーズンは、貴重な体験と周囲の支えを痛感した年でもあつた。同時に「リオ」という新たなターゲットを得た。「完全復活」と呼べる日を求めて、五輪前年の飛躍を見据えている。 text by (W) photo by (H)

October
10/18
sat
レディーズ
DAY
1日目

先陣を切ったのは、少年女子共通800mの池崎愛理(舟入高1)。1年生ながら上級生を相手に予選で組2着に入り、19日の決勝に進出した。また、その流れに乗って少年女子A400mHの小山田みなみ(高陽東高3)も19日の決勝に進出。そんな勢いの中で生まれた待望の広島県チームの初入賞は、成年女子ハンマー投で渡邊 茜(丸和運輸機関)。大健闘の2位に入賞した。

今日は女性の選手が活躍したのでレディーズdayと名付けた。



▲左から二本松結衣選手、木村文子選手、湯浅佳那子選手、沖佳織選手



▲渡邊茜選手

リベンジ
DAY
October
10/19
sun
2日目

本日決勝一発目は少年女子共通800mの池崎愛理(舟入高1)。序盤から良い位置につけ後半も粘りの走りを見せて自己新記録で3位入賞。その勢いに乗って少年女子A400mH小山田みなみ(高陽東高3)も前半から果敢に飛ばしながら後半もよく粘り5位に入賞した。広島県短距離のエース成年男子100m山縣亮太(慶応大4)は本日最後のレースに登場。今シーズン最後の大会に持ち前の集中力で臨み、見事4年ぶりの優勝を果たした。今回の優勝で少年B、少年A、成年と国体における全てのカテゴリーで優勝したことになり、まさに国体男としての面目躍如である。

本日の入賞者たちはインターハイ、アジア大会で悔しい思いをした選手たちなので、リベンジdayと名付けた。今回の国体を通してさらにステップアップしてくれることを願いたい。



▲左から小山田みなみ選手、池崎愛理選手



▲山縣亮太選手

October
10/20
mon
3日目

今年度広島県チーム唯一の中学生、少年女子B100mH二本松結衣(長江中3)が予選・準決勝と順調に突破し、中学生が2名しか進出なかった決勝においても5位入賞と健闘した。そうすると高校生も負けては行かない。少年男子共通走高跳の新野友博(山陽高3)も快調に跳躍し、2m06cmを1回目でクリアして4位に入賞。さらに、少年男子A5000mにおいて、新迫志希(世羅高2)が自己新記録で2位入賞と健闘を見せた。ジュニアの活躍が目立ったので、ジュニアdayと名付けた。

また、本日から400mRも始まり、男女共順調に予選を突破した。特に男子は11年ぶりに県記録を0秒41も更新する39秒12を記録し、新潟国体以来の入賞が期待できるものとなった。



▲左から前田義行先生、真野友博選手



▲二本松結衣選手



▲新迫志希選手

長崎国体!
広島県選手、大健闘!

今後は
強化育成に全力を!

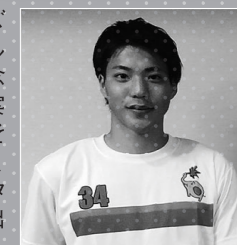
総合成績	天皇杯(男女)	65点	12位
	皇后杯(女)	37点	13位



▲広島県チームのテントの中は...

長崎国体 成年男子 100m 優勝
山縣 亮太選手からのメッセージ

私の今シーズンは、どうしても秋シーズンに照準を合わせなければなりません。結果は、毎年相性の良い織田記念で4位、そして日本選手権連覇を逃し、案の定振るわない前半戦となりましたが、その後9月の全日本インカレで初タイトル、長崎国体で優勝することができました。タイムも後半戦では安定して10秒1台を出せる所まで戻りました。

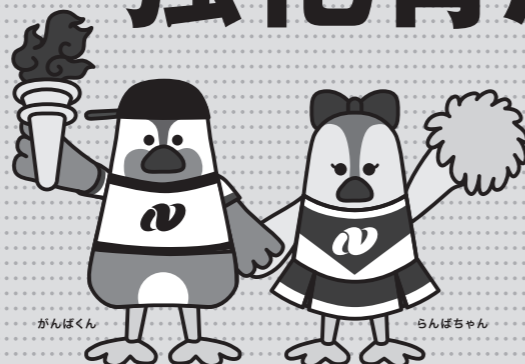


毎年国体は非常に相性が良く、振り返れば初出場の2008年大分国体で少年B100mで優勝して以来、2010年千葉では少年A優勝、成年デビューの2011年山口国体では3位ながら当時のジュニア日本記録更新、そして今年はラスト5mでライバルに競り勝ち好記録で優勝することができました。怪我等で国体に出られない年もありましたが、出場した年はいつも好成绩を収めることができ、どれほど自分は広島好きなのかと我ながら感心しています。ひとえに、家族・友人・先生方など、たくさんの広島の方々のお陰です。本当にありがとうございます。

自身においては、国体をもって今シーズンを終了しました。これから長い冬季練習に入りますが、今年は久しぶりに健康体で鍛錬期に入ることができそうです。この冬はしっかりとトレーニングを積み、来シーズンは3年ぶりの自己新記録を狙います。また、再び広島県の皆様に明るい話題を提供できるよう、国体では再び最高の走りをしたいと思いますので、どうかご期待下さい。



「がんばらんば」は「がんばろう」という意味の方言。全国から集まる選手も観客も、そしてスタッフもお互いががんばろうという、応援する言葉。広島チームもお互い、応援しあった。



第69回国民体育大会 / 第14回全国障害者スポーツ大会

長崎がんばらんば国体 2014
長崎がんばらんば大会 2014

君の夢 はばたけ今 ながさきから

October
10/21
Tue
4日目

少年男子共通5000mWに出場した山岡祥悟は自己ベストを更新したが、残念ながら入賞することができなかった。そんな流れを変えたのが成年男子やり投の池田康雄(Team BIG STONE)であった。今年37歳の池田は毎日が最後という気持ちで臨んでいるベテラン選手である。目まぐるしく変わる順位の中、最終の6投目で意地の投擲をみせ見事4位に入賞。ベテランらしい精神力の強さを見せてくれた。したがって、ベテランdayと名付けた。

また、男女リレーの準決勝では男子がまたも以前の県記録を更新する記録を出したが、惜しくも決勝に進出することができなかった。男子は常に40秒切りをする力、女子は45秒台を出す力が必要であるという課題が残った。



▲池田康雄選手

ロング
DAY

October
10/22
Wed
5日目



▲吉田圭太選手



▲小吉川志乃舞選手

最終日は長距離2種目が行われた。新迫先輩に続けと少年男子B3000m吉田圭太(世羅高1)が序盤からトップを引っ張り上位入賞の期待を持たせる快走を見せ、終盤もよく粘り6位に入賞した。

広島県最終種目となった少年女子A3000mの小吉川志乃舞(世羅高2)は序盤から良い位置取りを見せ上位をうかがわせる走りを展開。終盤もスピードの変化に良く対応し、見事3位入賞を果たした。

中野監督を
囲んでハイ
チーズ。▶



総合成績は天皇杯(男女)65点12位、皇后杯(女)37点13位となり、昨年度の成績を上回ることができた。今後も、ジュニア世代の強化育成とジュニアからシニア世代への強化の道筋をつくっていきたい。

《日本陸連栄章》を受章!!



毎年国体時に表彰される秩父宮章に広島陸上競技協会事務局長の樽谷和子先生が、優秀指導者章は高校が広島皆実高校の樋口裕志先生、中学校は西条中学校の平賀靖弘先生がそれぞれ受章された。本県陸上競技の活動にご尽力されていることに敬意を表し、お祝い申し上げます。おめでとうございます。

▲左から三宅広島陸協副会長、樽谷事務局長、樋口先生、平賀先生

年代別レポート

小体連

7月6日(日)の広島県予選を1位になった14種目22名が「チーム広島」として選手団を結成し、第30回全国小学生陸上競技交流大会日清カップ(神奈川県・日産スタジアム8月22・23日)に出場した。

全国大会までに選手達の団結・競技力向上のために、2回合同練習会を行った。1回目は広島皆実高等学校で行い、現役高校生アスリートの指導で小学生達は目をキラキラさせながら、良い雰囲気での練習会が出来た。2回目はびんご運動公園で行いあいにくの雨で、練習時間を短縮したものの、全国大会1週間前の緊張した状況でテキパキと動いている小学生達に驚いた。

そして、全国大会当日。自己ベストは5名(男女5年100m、女子走高跳、男子80mH、女子友好100m)。チームベスト(男女4×100mR)は2チーム。今年は決勝進出者はいなかったが、将来性を感じる選手ばかりだった。また、全国大会が行われていた8月23日、第17回全国小学生クロスカントリー-広島県予選が道後山クロスカントリー場で行われ、2年連続で「熊野陸上スポーツ少年団」が全国大会へのキップを手にした。

今後も広島の小中学生アスリートの活躍・活動を支援して頂きたく、皆様のご指導・ご協力のほどよろしくお願い致します。

広島陸上競技協会 指導普及委員会 花守 慎太郎



中体連

今年の第41回全日本中学校陸上競技選手権大会は香川県丸亀市で行われた。広島県からは男子22名、女子14名(いずれもリレーを含む)が参加した。入賞は男子棒高跳びの岡本江琉君(高美が丘3年)が3位、菅颯一郎君(高美が丘3年)が4位の2名であった。同じ学校から同じ種目でW入賞するのはこれまでにない快挙であった。また、入賞には至らなかったが女子100mHでは二本松結衣さん(長江3年)は県中学新記録を予選で樹立した。男子100mの山本陣君(大州3年)、男子110mHの大田瑞瑞壘君(五日市3年)たちはあと一步のところまで決勝進出を逃し残念だった。

10月末から行われた第45回ジュニアオリンピック陸上競技大会では二本松結衣さん(長江3年)が女子100mJH(ジュニアハードル)で見事優勝した。しかもその記録はこの種目歴代4位という立派な記録だ。高校生になってからの活躍が楽しみである。その他に2年男子100mで高卯健太郎君(福山城北2年)が7位、増木祐斗君(坂1年)が1年男子1500mで8位であった。男子400mRは県記録まであと0.03秒、準決勝全体の中で10番目と大健闘をみせた。毎週末リレーを指導して下さった先生方、また援助いただいている広島陸協に大変感謝しております。

今後の課題はやはり女子強化、とりわけフィールド種目の強化が急務である。女子の長距離やハードル種目は毎年高いレベルにあるが、フィールド種目は競技者数も減っているようであり、競技力が低下している。指導者を養成することと並行して強化を図っていきたい。

広島県中学校体育連盟陸上競技委員長
広島市立矢野中学校 濱村 祥水

高体連

2014年度高校生の活躍

夏から秋のシーズン、そして駅伝の季節となった。本年度の全国大会入賞者は次のとおりである。

平成26年度全国高校総体

- ◎男子5000m
優勝 ボール・カマイシ (世羅) 13分45秒12
- ◎女子3000m
6位 小吉川志乃舞 (世羅) 9分15秒13

第30回日本ジュニア陸上競技選手権大会

- ◎女子400mH
3位 小山田みなみ (高陽東) 1分00秒46
- ◎女子800m
2位 池崎愛里 (舟入) 2分11秒06
- ◎女子100mH
4位 山本香織 (神辺旭) 14秒11

◎女子ハンマー投

- 5位 高木優子 (安芸) 43m06

第69回国民体育大会

- ◎少年男子A5000m
2位 新辺志希 (世羅) 14分00秒45
- ◎少年男子B3000m
6位 吉田圭太 (世羅) 8分22秒19
- ◎少年男子共通走高跳
4位 真野友博 (山陽) 2m06
- ◎少年女子A3000m
3位 小吉川志乃舞 (世羅) 9分15秒81
- ◎少年女子A400mH
5位 小山田みなみ (高陽東) 59秒92
- ◎少年女子共通800m
3位 池崎愛里 (舟入) 2分09秒76

インターハイでは入賞者が2名だったが、シーズンが進むとともに入賞者も増えていった。また、駅伝シーズンにも突入し、本年度も世羅高校が男女とも広島県代表となった。さらに、男子記念大会による中国地区代表として広島国際学院が49年ぶりの全国大会出場を決めた。

◎第65回広島県高等学校駅伝競走大会

- ◎男子優勝 2時間05分49秒
世羅(新辺、植村、カマイシ、中島、笠井、井上、吉田)
- ◎女子優勝 1時間11分39秒
世羅(小吉川、浅田、背戸、長尾、向井)

◎第56回男子中国高等学校駅伝競走大会

- ◎男子4位中国地区代表 2時間08分44秒
広島国際学院
(川平、兼好、岡原、田淵、山本、柳藤、藤井)
- 広島県高等学校体育連盟陸上競技部競技力向上委員長
広島県立広島皆実高等学校 樋口 裕志

学生連盟

今年度の中四国学生連盟広島支部最初の大会は、6月7日(土)に庄原市上野総合公園陸上競技場で実業団と合同で開催した。第52回広島県実業団陸上競技選手権大会兼第47回広島県学生陸上競技選手権大会だった。

結果は男子で3つの大会新記録が出た。400mでは林雅人選手(広島大)が48.02をマーク。これは大会記録を0.43秒も更新。400mHでは坂井駿介選手(広島大)が53.11をマーク。こちらも大会記録を0.45秒更新。走幅跳では藤原駿也選手(広島経済大)が7.12(-1.3)をマークした。この日の天候は、はじめは曇りと天気がもっていたものの、夕方からは雨が降り出した。しかしながら、大きなトラブル、遅れもなく、無事に終えることができ、大会新記録も多く出て、なにより実業団と合同で行うことにより、選手、運営共々刺激していただき、今後の大会に繋がる実のあるものとなった。

次に9月12日(金)にコカ・コーラウエスト広島スタジアムで、平成26年度広島県学生連盟大会を開催した。この大会は昨年とは大きく違う試みを行った。種目を100m、4×100mリレー、4×400mリレーに絞って行った。そして、この後に控えていた、中四国学生選手権大会の練習も兼ねて、大会運営のほとんどを学生だけで行った。先生たちに指導していただきながらも、スターターなど普段は行わないことを学生自身が行って、勉強になった大会となった。

中国四国学生陸上競技連盟広島支部 幹事長
広島修道大学 藤田 優

実業団連盟

10月10日(金)~12日(日)、第62回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会が、山口市で開催された。当連盟所属選手では、チャールズ・ディランゴ選手(JFEスチール)が1500m第2位、5000m第7位、桑田和佳選手(広島大職員)がやり投で第8位に入賞した。

駅伝では、10月26日(日)に第52回広島県実業団駅伝競走大会が、岡山県笠岡市で行なわれた。同大会は岡山県社会人対抗駅伝と同時開催しており、大会には広島・岡山から計22チームが出場。広島県実業団駅伝は、中国電力が2年連続17回目の優勝を果たした。

また2部では、三菱レイヨン大竹が第2位に入り広島県勢最高順位となった。同日、2014実業団女子駅伝西日本大会が福岡県宗像市で開催され、エディオンが、第34回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会(12/14・仙台市)の出場権を獲得した。11月16日(日)には中国実業団対抗駅伝競走大会が世羅町で開催され、中国電力が18連覇を達成。この結果、第59回全日本実業団対抗駅伝競走大会(1/1・前橋市)に、中国電力、マツダ、JFEスチール、中電工の4チームの出場が決定した。

今年も当連盟の活動に対し、多くの皆様にご支援・ご協力を頂きまして、誠にありがとうございました。

広島県実業団陸上競技連盟 事務局
JFEスチール 山下 里恵



広島県実業団駅伝のスタート

マスターズ連盟

2014年度も「第18回中国マスターズ陸上クロスカントリー大会」を4月20日に道後山クロカンコースで一般参加者を含め75名が健闘を競った。続いて5月25日には「第32回広島マスターズ陸上競技選手権大会」が昨年と同様、尾道びんご運動公園で開催した。

大会には21種目の競技に延べ375名もの参加者があり、M90(90~94歳男子)の福井二郎選手が円盤投で9m97の大会新記録を出すなど、県新記録11、大会新記録が30も生まれた。9月には岡山県津山市で第33回中国マスターズ陸上競技選手権大会が行われ、広島から171名が参加、3000mではM25クラスで9分54秒82の日本マスターズ新記録が生まれ、大会を盛り上げる事ができた。

また、9月19日から岩手県北上運動公園で行われた第18回アジア・マスターズ陸上競技選手権大会兼全第35回全日本マスターズ陸上競技選手権大会ではM75(75~79歳男子)岩本邦史選手が800mで大会新記録を樹立する等、昨年に続いて広島県勢が活躍した。

県内のアスリートの皆さん、広島マスターズでは陸上競技愛好者の仲間を増やし、「明るく」「楽しく」をモットーに活動の輪を広げて参ります。会員の登録をお待ちしております。

ホームページアドレス
<http://hiroshima-masutazu.com>

広島マスターズ陸上 広報 福留 征二



第18回中国マスターズクロスカントリー大会のスタート

青少年の夢を応援します!

青少年健全育成協力企業

- 株式会社サタケ
- 広島駅弁当株式会社
- 株式会社広島銀行
- 広島ガス株式会社

- 広島電鉄株式会社
- 学校法人石田学園
- 株式会社中電工
- 株式会社もみじ銀行

- 広島総合警備保障株式会社
- 有限会社ニシヒロ
- アシックス販売株式会社
- 有限会社道後山高原サービス

- ひば・道後山高原荘
- 株式会社体育社
- 中国電力株式会社
- 大塚製菓株式会社広島支店 (順不同)

平成
26年度

一般財団法人広島陸上競技協会 受賞者名簿

公益財団法人日本陸上競技連盟栄章

- 秩父宮章 樽谷 和子(事務局長)
 高校優秀指導者章 樋口 裕志
 (広島皆実高校教諭)
 中学優秀指導者章 平賀 靖弘(西条中学校教諭)
 高校優秀選手章 福部 真子
 (広島皆実高校→日本体育大学)
 中学優秀選手章 吉田 圭太
 (高屋中学校→世羅高校)
 安藤百福記念章 行平 五夫(府中空城クラブ)

公益財団法人広島県体育協会体育賞

- 【功労者の部】
 ●河田 慎司(広島陸協)
 ●西本 悦雄(広島陸協)
 ●戸田 泰夫(広島市)
 ●世羅 繁治(呉市)
 ●土釜 一男(三次市)

一般財団法人広島陸上競技協会表彰

- 【功労章】
 ●内田 正(広島市)
 ●沖野 秀昭(広島市)
 ●宮本 昭男(広島市)
 ●中次 千穂(大竹市)
 ●吉岡 秀喜(竹原市)
 ●竹脇 健植(庄原市)

公益財団法人広島県体育協会体育賞

一般財団法人広島陸上競技協会表彰

- 【優秀選手賞】
 〈国際大会の部〉
 ●福部 真子(日本体育大学)
 第16回アジアジュニア陸上競技選手権大会
 (6月14日・台北)
 女子100mH 13秒98 優勝
 ●木村 文子(エディオン)
 第17回アジア競技大会(10月1日・仁川)
 女子100mH 13秒25 3位

- 山縣 亮太(慶應義塾大学)
 第17回アジア競技大会(10月2日・仁川)
 山縣亮太・飯塚翔太・高平慎士・高瀬慧
 男子4×400mR 38秒49 2位
 〈国内大会の部〉
 ●ポール・カマイシ(世羅高校)
 第28回福岡国際クロスカントリー大会(2月22日・福岡)
 ジュニア男子8km 23分17秒
 第67回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
 (8月2日・山梨)
 男子5000m 13分45秒12
 ●木村 文子(エディオン)
 第98回日本陸上競技選手権大会(6月9日・福島)
 女子100mH 13秒34
 ●山縣 亮太(慶應義塾大学)
 第83回日本学生陸上競技対校選手権大会
 (9月6日・熊谷)
 男子100m 10秒20
 (9月7日・熊谷)
 男子4×400mR 3分04秒58
 ●茅田 昂(慶應義塾大学)
 第83回日本学生陸上競技対校選手権大会
 (9月7日・熊谷)
 男子4×400mR 3分04秒58
 ●二本松結衣(長江中学校)
 第45回ジュニアオリンピック陸上競技大会
 (10月31日・日産)
 女子100mYH 13秒96

〈第69回国民体育大会優勝および入賞の部〉

- [1位] ●山縣 亮太(慶應義塾大学)
 成年男子100m 10秒17
 [2位] ●渡邊 茜(丸和運輸機関)
 成年女子ハンマー投 60m53
 ●新迫 志希(世羅高校)
 少年男子A5000m 14分00秒45
 [3位] ●池崎 愛里(舟入高校)
 少年女子共通800m 2分9秒76
 ●小吉川志乃舞(世羅高校)
 少年女子A3000m 9分15秒81

- [4位] ●真野 友博(山陽高校)
 少年男子共通走高跳 2m06
 ●池田 康雄(Team BIG STONE)
 成年男子やり投 74m88
 [5位] ●小山田みなみ(高陽東高校)
 少年女子A400mH 59秒92
 ●二本松結衣(長江中学)
 少年女子B100mH 14秒13
 [6位] ●吉田 圭太(世羅高校)
 少年男子B3000m 8分22秒19

一般財団法人広島陸上競技協会表彰

- 【新記録賞】
 【県高校記録】
 ●二本松結衣(長江中学校)
 女子100mH 14秒28
 第41回全日本中学校陸上競技選手権大会
 (8月19日・丸亀)
 ●菅 颯一郎(高美が丘中学校)
 男子棒高跳 4m50
 第18回群馬県棒高跳記録会(8月10日・ベルドーム)
 【県記録】
 ●西塔 拓己(東洋大学)
 男子5000mW 20分07秒53
 第68回広島県選手権大会(6月29日・広島スタジアム)
 男子10000mW 39分23秒58
 第93回関東学生陸上競技対校選手権大会
 (5月17日・熊谷)
 男子5KmW 19分32秒
 第97回日本選手権20Km競歩(2月16日・神戸)
 男子10KmW 39分22秒
 第97回日本選手権20Km競歩(2月16日・神戸)
 ●広島県チーム
 野田 悠斗(盈進高校)
 北村 拓也(早稲田大学)
 松尾 隆雅(神辺旭高校)
 山縣 亮太(慶應義塾大学)
 男子4×100mR 39秒82
 第69回長崎国体(10月20日・長崎)

2015 中国女子世羅駅伝競走大会

多くの方々に惜まれて閉幕となった中国女子駅伝が、2015中国女子世羅駅伝として復活します。早期復活を強く願っていた本協会佐々木秀昌会長と、駅伝によるまちづくりに取り組む奥田正和世羅町長との話し合いが7月28日(日)にあり、両者の熱い思いで合意に達し、平成27年2月8日(日)に開催されることになりました。

コースは世羅町防災センター前をスタートし、せら文化センターをフィニッシュとする5区間21.1kmで、当面都市対抗で行われます。全都市から参加したチームの熱いレースが期待されます。

決定!

第49回 織田幹雄記念国際陸上競技大会

4月29日(昭和の日)開催が恒例となっている織田幹雄記念国際陸上競技大会が、第49回は平成27年4月18日(土)・19日(日)に開催されます。

2016リオ五輪の出場枠獲得がかかる第2回IAAFワールドリレーが5月2日・3日にパナマであり、そこに日本代表チームを派遣するためです。織田記念陸上は、このワールドリレー日本代表選手選考競技会として位置づけられ、大会ではリレーに関係する100m、200m、400mを含めて行われます。

ちょっと
いい話



11月6日、中国中学校駅伝大会を目前に控え、坂中学校の選手が最後の調整練習のため、広島スタジアムで練習をしていた。その時、同じグラウンドで練習をしていたのが、なんと…長崎国体で優勝した、あの山縣亮太選手! ちょうど広島へ帰省されていたのだ。坂中学校の肥田コーチの依頼に気さくに山縣選手が快諾。坂中学校の選手へメッセージが送られた。

『優勝候補は勝たなきゃいけないプレッシャーがかかると思う。でも、優勝候補になるチームになったということは、どこよりも力をつけた証拠だから、自信に変えてほしい。120%出そうとしなくてよい。今までどおりの力を、100%に近づけて引き出せば、君たちは勝てるよ! 結果を期待しているからね! がんばって!』

との話に、選手は、目の色を変えいつもよりも前のめりになって聞き入った。

坂中学校は、大会前から優勝候補と言われ、プレッシャーを感じながらの本番を迎えた。このメッセージに後押しされ、大会当初のレースでは、みごと優勝を勝ち取り、全国大会への切符を手にした。(F)